

『おことばのとおり』(ルカの福音書 2章 21-40節) 2021.12.26.

<はじめに> クリスマスの物語に御使い・夢・星など超自然的な現象が大切な役割を果たしています。同時にキリスト誕生の一連の出来事は、神の約束と聖書の預言が成就です。まさしく、クリスマスは神ご自身が様々な方法で関わり、この事を実現されました(ヘブル 1:1-2)。

I 既に語られていること

①律法の定め(21-24,27)

モーセの律法(22)は神のことばとして、ユダヤ人はこれを読み、聞き、守っていました。イエスの両親も、幼子イエスに割礼を施し(21)、きよめの期間(=40日)を守った後(22)、幼子を主に献げる証しとしてのいけにえ献納にエルサレムの神殿を訪れました(23-24,27)。

②律法にしたがってすべてのことを(39)

これらの律法の規定は、生来罪深い人間が神の民・家族の一員とされるためです。神の御子には本来不要なのに、人となられた故に律法の下に服され、イエスの両親はそれを忠実に成し遂げました(39)。イエスは律法を成就するために来られた方です。

③すべてが実現します(マタイ 5:17-18)

私たちは聖書を手にし、読めます。それらは既に語られた神のことばとして、今も私たちに語り掛けます。神の働きと計画は聖書に記されたとおりに進み、実現します。それ故に、神が何を願い、どのように進まれるかを知るために、私たちは聖書を読むのです。

II 個人的な導き

①二人の老人(25-38)

幼子イエスを伴って神殿を訪れた両親は、二人の老人シメオンとアンナに相次いで出会い、それぞれが幼子について語り、神を賛美します。この出会いは偶然でしょうか。両親が律法にしたがって行動していた中で、この出来事は起こりました。

②イエスへと導く

羊飼いは天の御使いが(10-12)、東方の博士たちには星が(マタイ 2:1-12)イエスへと導きました。シメオンは「聖霊に導かれて」(27)、アンナは「祈りと断食をもって神に仕え」(37)とあります。それぞれ個人的な導きと語り掛けによって、この幼子と両親と出会いました。

③待ち望む人に(25,38)

この二人は長寿なのは、イエスに会い、イエスを証しするためでした(26)。主の御言の実現を待ち望んでいたからです。聖書を読むとき、聖霊の助けにより、また聖霊に導かれた人を通してイエスを知り、出会えます(ヨハネ 14:26)。主のことばは必ず実現します(1:45)。

III 語り掛けを受けて

①驚きつつ理解する(29-33、38)

両親は既にイエスについて啓示を受けていましたが、シメオン・アンナが幼子イエスについて語ったことで驚きます。この幼子が異邦人を照らす光(32)であり、万民の前に備えられた救い(30-31)、主の民に慰め(25)と贖い(38)をもたらすと、両親は理解が深めました。

②人の心の試金石(34-35)

マリアには悩ましいことも告げられています。イザヤ 53章、詩篇 22篇の受難のメシア像と重なります。イエスが、反抗する人にはつまづきの石(イザヤ 8:14)、信じる人には踏み台の石(イザヤ 28:16)となるからです。イエスへの向き合い方がその心の試金石となります。

③聞く耳のある者は聞きなさい(ルカ 14:35)

主から与えられる御言には、素直に受け取れるものだけではなく、不可解や悩ましいものもあります。人々が耳に心地よい話を聞こうとして、真理から耳を背ける時代が来ると聖書は警戒します(II テモテ 4:3-4)。厳しい御言の中にも祝福があると信じていますか(34)。

<おわりに> 主が語られたことは必ず実現します。年頭に、折々にいただく御言もそうです。最初に受け取った時とその後では、その御言が心に語り掛ける内容や視点に変化と深化があるはず。「主のみことばのとおりです」と体験し、告白するお互いでありたいものです。(H.M.)